

事業所名		公表日 令和8年 3月 15日				
テラコヤキッズ川崎教室（放課後等デイサービス）						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		支援室のスペースに関して、別室がなくクールダウンができる場所がないため、部屋の隅にカーテンを垂らすなど工夫して環境を整えている。	利用定員とスペースの関係は適切だと思うが、別室がないためグループに分かれた活動の際などに不便になることがある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	5	事務スペース前の床にテープを貼り、お子様はその前で事務スペース内の職員に声をかける練習をしている。	活動室と事務スペースの仕切りがバーションのみで、お子様が事務スペースに自由に入出入りできてしまう環境になっている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	2	収納は少ないが、なるべく事務スペース内やロッカー内などお子様の目に触れない場所に物を置いたり、カーテンを垂らしたりして刺激を少なくするよう工夫している。	収納が限られているため、お子様にとって刺激になってしまうことがある。 水もれあり。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		声は聞こえてしまうものの、面談スペースはバーションで区切り、活動室内は必要に応じてホワイトボードや机を仕切りにしてスペースを分けて使用するようになっている。	クールダウンスペースとして、またグループに分かれた活動や個別で話したいときに使用する場所がない。 アコーディオンカーテンで仕切られているが、個別の部屋はない。面談スペースが独立するとよい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		年2回以上、上長と1対1で面談する機会を設け、各自の業務課題や目標の設定を行いながらスタッフの意見等を把握し、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		年5回、法人内の全事業所スタッフが集まり事例検討やマニュアル研修を行って支援の質向上に努めている。障がい者支援者向けのオンライン研修サービス「リーンオンミー」を導入して毎月研修動画の視聴を行っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		最新の個別支援計画を別ファイルにまとめており、スタッフが自由に閲覧できるようにしている。	更新時に共有しているが、計画に沿った支援を行うにはより頻繁にスタッフ全員で支援計画を確認が必要があると思う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		事業所内で知能検査や発達検査は行っていないが、施設運営システムとして「HUG」を導入して個別支援計画等の作成を行っている。	標準化されたツールの使用はしていない。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		各イベントの企画書はスタッフが分担して提出しているが、活動内容は全員で共通認識をもってチームで活動を導くようにしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		月ごと、週ごとのプログラム計画を立て、お子様がより多くの活動を体験できるよう工夫している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		室内ゲームや調理、外出など集団で行える活動と、お子様の状況に合わせた個別の自立課題とを組み合わせ支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝、朝礼の時間を設けて活動の見通しや役割分担などを確認し合っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		時短勤務の職員がいるため、翌日の朝礼時に「前日の振り返り」を行い、気付いた点や情報の共有を欠かさず行うようにしている。 終了後に振り返りを行い、今後の支援に活かせるように	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		保護者様や学校の先生方との面談の際などに、日々の記録を確認しながらお子様の状況を伝えることで、より良い支援方法の検討に役立っている。	細かく記録をとるようにしているが、検証・改善につなげる機会が少ないので記録を活用した振り返りを行えるようにしたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		発語のないお子様には、イラストや写真で選べるよう提示をしたり、筆談をしたりして意志の確認を行い、尊重する心がけている。 活動の選択の中から自分で決める場面を設けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		今年度の卒業生について、ご本人の状況や支援内容等をまとめ、進路先となる障害福祉サービス事業所への情報提供がスムーズに行えるようにしている。 卒業生と面談し、今後について話す場を設けている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		近所にある地域療育センターと密に連携をとり、担当のソーシャルワーカーに活動内容を見学してもらって支援に対する助言を受けている。	連携は取っているが、スーパーバイズを受ける機会はない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		地域のお子様たちにも参加していただけるようなイベントを企画した。	ポスティング等の広告ができていないこともあり、イベントの周知や集客に課題を感じている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1		
保護者への	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		オンラインを利用して、ご家族が知りたいと思われる情報提供ができるよう年2回のセミナーを開催している。 セミナーを年2回開催している。	家族が参加可能な研修は設けているが、ペアレントトレーニング等、家族支援のプログラムの機会は少ない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5	参加者を集めることに苦労しているが、カフェや夏祭りなど保護者が参加可能なイベントを企画し、来てくださった保護者同士で交流してもらえるようにしている。 また、ご要望を受け2025年度以降は年2回の保護者懇談会を予定している。	保護者同士の交流の機会がほしいとの要望は出ているが、開催はされていない。

説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月「瓦版」を発行して保護者様に活動内容を写真とともにお伝えし、ブログも更新している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		外国籍の保護者様とは、翻訳アプリを用いたりローマ字記入をしたりして意思疎通や情報伝達を行っている。障害をおもちの保護者様とも、なるべく分かりやすい方法で情報をお伝えするよう心がけている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5		接客イベントに施設のオーナーや近隣住民を招待したいが、実現には至っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		毎月の活動プログラムのなかに避難訓練を取り入れて繰り返し実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		医師の指示が必要な重度の食物アレルギーがあるお子様は在籍していないが、アレルギーの把握や都度の確認は怠らないよう留意している。	アレルギーの把握はしており、調理活動等に取り入れられないようにしているが、医師の指示書に基づく対応はしていない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			携帯電話番号などの緊急連絡先に変更がないか、定期的な確認を徹底できるようにワークフローに組み入れることが必要。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		月1回、虐待防止委員会を開催している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			